

学校で出来る不登校支援

～教育の専門家としての対応～

7月25日に鹿嶋真弓先生（逗子市教育研究所長）を講師に迎え、第2回不登校支援担当者研修会において「組織的に取り組む不登校の予防と対応」ということで1日研修を行いました。不登校支援担当者の方と一緒に学んだ不登校と向き合うための基礎知識について、そして学校でできる不登校支援について紹介します。

不登校についてどうとらえればいいのか？

① 問題のとらえ方

- ・ネガティブな見方からポジティブな見方へ
不登校は「困ったこと・悪いこと」でなくその子にとって「必要なこと・大事なこと」
学級復帰の大前提として、学級担任が不登校の子どもをポジティブに理解すること。

② 問題のとらえ方について保護者に伝える

- ・学級担任は教育の専門家として、不登校の問題のとらえ方について保護者に説明し認識を変える手伝いをする。

不登校の
基礎知識



不登校と向き合うための基礎知識

成長・発達の課題を考え、課題をクリアにし、登校につなげる

- 一人ひとりに異なる対応・・・特効薬はない
- 日常の積み重ねがポイント・・・漢方薬のように



解決策を与えるのではなく共に考える姿勢で、再登校の必要条件は学校・担任とのパイプである。

代表的な不登校対応技法として

(1) カウンセリングの基本的技法 ー傾聴的態度と受容ー

☆ うなづき 繰り返し 要約 感情の明確化 質問 支持

(例) 「なるほどそうなんだ。」 「～が嫌だったんだね。」 「いますごく怒っているんだね。」 と相手の思いを繰り返しながら、くやしいのか、つらいのか、悲しいのか、怒っているのかなど感情を明確化する。

(2) ジョイング ー基本的技法のあわせ技ー

☆ 相手の価値観等に波長を合わせる。

(例) 助言や指示をするのではなく、「さみしいよね」「つらいよね」と言って一緒になって考える。

(3) リソース（資源）探し ー誰でもたくさんもっているものー

☆ 解決するために何でも利用する。長所だけでなく、短所もリソースにする。

(例) どのようなことに興味や関心があるのか、その子の友人や生活環境について整理する。

《内的リソース》

- ・能力
- ・興味や関心
- ・既にできていること
- ・やれていること



《外的リソース》

- ・周りにあるもの
- ・親や友だち
- ・ペット
- ・熱中しているもの

(4) 例外探し ー視点を変わると見えてくるー

☆ いつもではなく、いつもとは違うことがおこった時に、リソース（資源）が隠れている。

(例) いつもの時間に保健室にやってくる子どもが、保健室に来ないのはどんな時かな？と考えて、糸口が少しでもあると、そこから広げていくことができます。いつもでない、ほんの少しの『例外』を探ることが解決策のヒントになります。

(5) スケーリング・クエスチョン ー状態がよくなるためのリソースを引き出すためにー

☆ 解決志向ブリーフセラピーの手法のひとつです。

(例)「最高の状態を10点、良くない状態を0点とすると、今は何点ですか?」と子どもに聞いてみます。「今は4点かな。」と答えたとすると、足りないほうに注目するのではなく、「4点なんだ!その4点ってどんなことができているの?」ということから始めます。そして、「1点あげるには、どうしたらいいかな。」と安心して次の行動が考えられるようにします。10点満点中1点でも、2点でも、自分が出来ているところを見つけて、次のステップに向けて何をしたらいいのかなと考えていきます。



学校で出来る取り組みプランの紹介

学校でも家庭でもできる取り組みプランを紹介します。登校の記録表の使い方は、学校に登校した時間帯にシールを貼ります。最初に目標枚数を子どもと決めます。次に、その目標が達成されたときの簡単なルールを決めます。

例えば、家庭で行う時はシール5つでアイスクリーム、学校で行う時は、シール4つで次の週に卓球をする等、その子どもに応じたルールを決めます。その時のポイントは、子どもと決めることです。

<登校の記録表>

家庭でも、学校でも簡単にできる登校記録表です。学校にいた時間にシールを貼ります。目に見える目標となります。

登校の記録表

記録日: 月 日 ~ 月 日

ルール

- ・学校に来たら
- ・先生にシールをはってもら
- ・シールが 個で「 」

	午前中				
	給食				
	午後				
	放課後				
		月	火	水	木
					金

最初に簡単なルールを子どもが保護者、または先生と相談して決めます。

午前中に来たらシール1つ、給食も食べたらシール2つと貼っていきます。

不登校支援担当者による2学期の取り組み

不登校支援担当者研修会で、参加者が1学期の反省をもとにそれぞれの所属学校で行う2学期からの取り組みを考えてみました。

- 朝、校門で挨拶しながら子どもを迎える。
- 保健室・別室の環境整備をする。
- 朝、靴箱の前に立って、出欠の確認をしながら子どもたちに声をかけていく。



- ホワイトボード等を使い、子どもの居場所確認と出欠状況についての情報を共有する。
- Q-Uの分析と活用において、ヘルプシグナルの出ている子どもと、要支援群の子どもについては担任がどのような支援を行ったのか、管理職と情報を共有する。



不登校支援担当者は、「支援者支援」という立場であることを再認識することができた。この研修で得た資料を職場全員に配付し、広めていきたい。

連絡先：高知市教育研究所教育相談班 (TEL:088-832-4498・4497)